

## SISS サマースクールに参加して

文教育学部人間社会科学科3年

米山 英里

## 1.参加の動機・目的

今回私がこのS I S Sのサマースクールに参加を決意したのは、理由が三つある。まず一つ目は、海外、特にアジアに興味があり、韓国という日本に近く異なる文化をもった国にも親しみや、興味を抱いていたため、今回の三週間のサマースクールに参加して、英語の授業や、午後の韓国語の授業などを通じて、韓国の文化を体験してみたいと思ったからである。韓国の文化を感じながら、英語にも親しめる講義内容に特に惹かれた。二つ目は、大学の私が専攻しているコースの実習単位の取得が出来るからである。今年の東日本大震災の影響で代替のプログラムとして選ばれた今回のサマースクールは、通常よりも期間・内容ともに濃いものだと感じ、参加を決意した。三つ目は、三年目となる大学生活の中で、新鮮な感動を受けてみたいと思ったからである。大学にも慣れてきて、進路や将来について考える必要に迫られるこの夏に、不慣れな海外で様々な刺激を受けてみたいと思ったのである。幸いに協定の大学ということで授業料も免除され、待遇も良く用意していただいたので、今回のサマースクールは、海外体験に適切だと感じた。以上三つが私のS I S S参加の理由である。

## 2.成果

## 2.1 多文化交流実習Ⅰ

午前中の英語の講義は、「International Marketing」を専攻した。ドイツ出身の教授による、流暢な英語で講義はすすめられた。マーケティングにおける基礎知識に関する講義が一時間、実際に参考になる(多国籍)企業の資料を文献や、ビデオでのぞく一時間、参考の企業についてディスカッションで戦略やメリット・デメリットなど国際社会での立場について考察する講義内容が一時間ずつと用意され、サマースクール全体の終盤においては、グループごとにパワーポイントで国や地域に焦点を当てた市場についての発表も行った。不慣れなMarketingの講義内容を英語で受けるのは難しく感じたものの、教授の分かりやすい資料の提供や、説明で、毎日少しずつではあるが、内容に関心を持ち、話し合っていくことが出来た。

多国籍企業の、多国籍企業に至った様々な経緯や、異文化の受け入れ方、多様な国へのアプローチの戦略などなど、身近に感じていた様々な企業も、宣伝や、攻め方、他国ではまた違った顔を持っていることを知り、知識はまだまだ浅いものの、世界をまたにかける企業の面白み、そしてこれからの展望についてもMarketingの講義で関心を持つことが出来た。

## 2.2 多文化交流実習Ⅱ

午後のハングルの講義において、私は四つあるレベルの中で、レベル2に振り分けられた。正直ハングルが読めるレベルで、単語や文法についてはほとんど知識がなかった為、韓国語で行われるレベル2の講義は三時間の講義が充実しすぎていたように思う。文化や習慣が似ている部分がある韓国の言葉の為、文法や目上の方との話し方などを学んでいくのは楽しく、また似ている中で異なる部分もあるため、深く関

心を持たた。

私にとって第二外国語でもない、韓国語を学んだことについて、私は全く違和感を感じなかった。毎日の単語や文法の復習に精を出した日々は楽しいだけではなかったが、やはり私の中で、親しみを感じている外国である、韓国の言語でもあり、この実習中にはとどまらないだろうと思うし、また現地の生徒や一般の人々と現地の言葉で少しでも通じ合えることに、大きな喜びを感じた。これからも少しずつでも韓国語にふれ、活かしていけたらと思う。

## 2.3 ショートビジットで学んだこと

2.3.1.韓国での分化でまず一番驚いたのが、サービス業の店員の接客の違いである。韓国の人々はみな親切で親しみやすく、日本人の私はとても馴染みやすかったのだが、店員の自由な接客態度にはじめは驚かされた。客の前での姿が自然体で、良く言えば日本のように堅苦しくないのである。カフェに入った時に、注文を受ける店員が携帯電話で話し始めることや、ニコリともしないコンビニの店員など、むしろ忙しいときには嫌な顔をされたこともあったし、ミョンドンファッション店では友達のように接してくる店員もいた。

このような体験を通じて、やはり国による接客の違いと、それを受け入れる（作っている）国民性があるのだと感じた。それによる、海外企業進出におけるニーズも異なってくるのだろう。国の違いによって、サービス自体の定義や受け取り方も替わってくるのだと学んだ。またこの体験によって、私は韓国の何事にも寛容な精神も特に感じた。

2.3.2.次に、サマースクールを通じて、韓国の文化を肌で感じられたことに私はとても感謝している。自分たちで生活し、感じた部分も多くあったし、お世話になった淑明女子大学には民俗村や、韓国で有名なナンタというショーにも連れて行っていただき、より韓国の多様な文化に触れさせていただいた。もともと韓国を身近に感じていた私にとって、だけれどもあちらこちらで文化が違う国の生活は、とても刺激的であった。この体験を通じて、分かっているつもりのも日本でも、もっと意外な文化や、根本的に考え方が違っている部分もあるのではと思うようになった。

2.3.3.今回の実習では、また私の小さな殻を壊すこともできた。午前中の **Marketing** の講義で、私の苦手とするパワーポイントの発表が用意されており、サマースクールに参加しているメンバーと5人のチームを作って話し合い、後半の講義で発表するという課題であった。私は何より人前で発表するというのが苦手であり、プレゼンテーションの発表ももちろん苦手であったが、英語で必死にメンバーと構想を練り、パワーポイントを製作していくうちに、メンバーと一緒に作ることもあって、楽しさを感じられるようになった。パワーポイントやその原稿をメンバーと作っていくうちに、自らの意見も入れていけるようになり、周りの意見もそうするとよりはっきりと、自分の中で噛み砕いていけるようになり、製作はより楽しく感じられた。私たちのグループの発表の本番当日、いつものように私は緊張のしっぱなしであった。しかし、発表が終わった後の達成感と、その発表中に感じられた自分の意見を伝えるという少しの楽しさ、なによりその少しの楽しさを感じられたことに、私はこの課題の有意義さを感じた。

今までより、プレゼンテーションに対する意識と、自分の意見を伝えるという苦手意識を、今回の体験

で少し変えられた気がする。

また今回のサマースクールで出会った人々がみな親切で、ユーモアあふれる人々だったことに感謝したい。私のバディとなってくれた淑明女子大学のスジョンには特に最大の感謝である!

### 3.まとめ

この体験を機に、これからの日韓の関係にもますます関心を持って、またこれからますますいろんな方面で更に深い関係を持っていくであろう韓国に、意識を向けていきたいと思う。今回の実習に関して、一つ思ったのは、韓国語のクラス分けがもう少し細分化されて、個々のレベルに近いものであればと良かったと感じる。私にとってレベルⅠは簡単すぎて、レベルⅡは難しく感じたため、そう思う。

最後に、私の留学に対する意識と海外への関心を強めてくれたこのサマースクールに関わった人々に改めて感謝したい。